

## 島根県水産振興審議会（令和元年度第1回）議事録要旨

■日 時 令和元年9月6日（金）13：30～15：00

■場 所 島根県立県民会館 303会議室

### ■出席者

【委員】大江委員、門脇委員、林委員、牧野委員、小川委員、河野委員、保永委員、岡田委員、園山委員、波田地委員、加藤委員、佐々木委員

【事務局】鈴木農林水産部長、三浦次長(水産)、太田水産課長、安木漁港漁場整備課長、横田水産しまね振興室長、中尾農林水産総務課管理監、外関係職員

### ■審議会の概要

#### 1. 開 会

#### 2. 農林水産部長あいさつ 鈴木農林水産部長

- ・島根県では、今後の島根県政をどう進めていくかということで、島根創生計画の策定を進めている。
- ・水産についても、全体の方向に即したどういった水産行政が求められるかということを考える必要がある。
- ・「企業の経営体」「沿岸漁業」二つの柱をしっかりとやっていく。
- ・本日は、初回ということで、各委員の皆様から水産に関して感じていることや行政に対する問題意識など率直にお話いただきたい。

#### 3. 議事

##### (1) 会長選任について（進行：事務局 中尾管理監）

- ・委員互選により、保永会長を選任。
- ・会長選任により大江職務代理者を指名。大江氏承認

##### (2) 新たな農林水産業・農山漁村活性化計画の実施状況と今後の方針について

(説明：事務局 仲村企画幹)

- ・(2)～(4)の説明を一括で実施

##### (3) 島根創生計画（素案）について

(説明：事務局 松尾調整監)

##### (4) 浜田漁港 水産流通基盤整備事業について

(説明：漁港漁場整備課 安田GL)

《水産に関する意見・質疑》

◇佐々木委員

- ・浜田においても、地元の魚が安く買えないと魅力がないと思っている。

- ・お魚センターが現在改修しているが、出来れば以前もあつた料理教室が実施できる部屋を残して欲しい。
- ・新聞記事を読んで思うことを述べさせていただきたい。
- ・一つは、県の竹島資料室で、竹島に関する本の読み聞かせがあつた。来年も引き続き開催していただきたいし、浜田の方でも実施していただきたい。
- ・8月の報告で、全国の漁業就業者数が、142,082人で、1963年以降からで最小を記録した。今後も、しっかり就業者対策を考えていただきたい。
- ・宍道湖シジミ漁の体験の記事があつた。とても良いことなので、是非とも続けていただきたい。

#### ◇加藤委員

- ・島根創生計画や農林水産部の計画など、すごいなと感じた。色々な分野の考えを再認識させていただいた。
- ・私ができることとして、学校現場での地産地消について給食を通じて子供達に伝えていきたい。
- ・今の学校給食の現状として、地産地消率54%である中で、魚をもっと出していきたい思いがあるが、年々、魚の値段が高騰している。本校では、1食275円でやっているが、その中で、5年前の価格は、55円であつたが、今は80円となっており、年々アップしている。そのため、給食での魚の利用が難しい状況となっている。
- ・魚が嫌い、魚が苦手の子供達も引き続きいるが、美味しい魚をしっかり提供できれば、子供達は味覚が発達しているので、美味しさが解り、魚を好きになってもらえる。
- ・給食会のカタログには、島根県産の魚が選ばれていない。境港などの県外産である。島根県の魚を提供するということにもう少し力を入れていただきたい。
- ・保護者においても、食卓に魚が出てくる機会が少ない状況。魚は高く、処理が大変ということで敬遠されている。ゴミ出しの前日にしか出ないという状況もあるようだ。
- ・学校現場としても、島根の魚を出したいという思いがあるので、協力いただきたい。

#### ◇波田地委員

- ・保育所においても、魚を提供しているが、当日入荷が無いということで、提供できないことが多々ある。
- ・魚を給食に出せば、子供達は喜んで食べている。ただ、家庭で魚が出る機会が少ないようで、子供達が食べる姿を見て、保護者が驚くこともある。
- ・保育所においては、骨がついた魚を出すことがあるが、家庭では、骨の無い魚が多く出るようだ。
- ・サンマをそのまま焼いて出すこともやっているが、魚が入らないことがあり、十分に給食で提供することが出来ていない。食べさせたいけど、食べさせられない状況もある。こういった点を少しでも解決できれば良いのではと思っている。

#### ◇園山委員

- ・生協しまねの組合員では、やはり、魚より肉を利用するという方が多い。
- ・新しくなられた組合員では、魚も加工品であれば利用しやすいと言われ、魚利用の

ハードルが下がったと言っている。非常に良いことと感じている。

- ・やはり一匹の魚を処理して、家庭で食べていただくということも出来ていくと良いなあと日々感じている。
- ・生協しまねの活動の中で、一つの団体がやっていくことは難しいので、他と連携を取りながら、食育という視点からも考えて、色々な取り組みを共同でやっていければと考えている。

#### ◇岡田委員

- ・4月まで記者をしており、平田や斐川が主な担当区域であった。
- ・十六島町にある北浜小学校の中に水族館があり、中庭に12基の水槽が置いてある。1993年に、全て十六島湾で取れる魚、約50種類、350匹の魚を展示し、子供達が餌やりなどの管理している。その他、漁船に乗ったりする体験なども行っている。
- ・この水族館は、開校当時に、地元の魚を知ってもらいたいという熱い思いから、地元の漁業者などが海水を引き込むパイプなどの工事を手弁当で行われた。
- ・漁港のある小学校で、このような地道な活動をしておられ、小さい頃の体験は、大人になって蘇ってくるものなので、すごい豊かな学校だと思った。ただ、統廃合の対象校となっており、数年後には無くなってしまう予定となっている。
- ・島根県内で、地元の資源を活かした取り組みを行っている学校は参考事例になるのではないかと思う。このような学校を、今後も紹介していければと思っている。
- ・また、神戸川の漁協を取材した折に、海水温が上がって、稚鮎が帰ってこなくなると伺った。気候変動など、地球は繋がっているということで、また全国的にイカが少なくなったなど漁業への影響も出ている中で、環境変化に対して、島根の漁業振興と関連させ、一つでも発信することができると良いのではないかと。
- ・豊かな自然がある島根だからできる発信、強いては水産振興に繋がっていけば良いのかなと考えている。

#### ◇河野委員

- ・加工業者としての意見を言いたい。
- ・水産振興の現状と課題の中に、魚価の低迷とあるが、加工業者の立場で言えば、低迷というより高騰している。
- ・例えば、ノドグロで言えば、5年前と比べて競り値は、倍ぐらいになっている。
- ・浜田漁港に基盤整備していただくことは大変ありがたいと思っている。水揚げ額が上がることを期待している。
- ・県外漁船を受け入れるためにという理由もあると思うが、県外漁船も魚の値が高くないと入ってこない。魚価を支えることが無いと、県外漁船も入ってほくれない。
- ・ただ、消費者に対して魚を安く提供したいという気持ちはあるが、難しい。そのため、加工業者も減り、底びき業者も経営不振で2ヶ統減っている。経営面でいうと、今の魚価ではやっていけないという状況である。
- ・沿岸漁業の水揚げ額300万円以上の人数を増やす目標があるが、水揚げ300万円で、経費を差し引いたら、おそらく生活は成り立たない。魚価を安定させるということは、なかなか難しい。
- ・自分は、インターネットで加工品を販売しているが、高いものから売れていく。ノ

ドグロでも、サイズの大きいものから売れていく。加工業者としても、高値で魚価を支えるということは大事だと感じている。

- ・主婦としては、魚は安くという考えは解るが、難しい問題である。

#### ◇小川委員

- ・女性の委員から魚の話があったが、是非魚を食べていただきたいので、どんどん進めていただきたい。
- ・今、アゴ（トビウオ）で言えば、1匹70円ぐらいで売れていると思うが、生産者価格では、10～20円である。定置網漁業者は、魚価が安くて困っている。沢山獲れると安くなる。少ないと高い。マイカ等は、キロ2千円ぐらいになったりする。イカは、骨も無く、消費者は購入しやすいため人気がある。
- ・我々も、安い魚を、地元の老人ホームとか学校給食に使ってもらいたいと率先して行ったが、うまくいかない面もあった。生産者から直接となると、有るときと無いときがあるため計画が立たないという面があり、うまくいかなかった。最近は、冷凍技術も上がってきているので、別に鮮魚で無くても、冷凍魚でも良いのではとの考えになってくる。
- ・魚離れと言われるが、松江市の回転寿司はいつもいっぱいである。結構、魚は食べられているが、骨があったりということが敬遠されるのではないかと。
- ・魚をいっぱい食べていただかないと、我々漁師は少なくなってしまう。我々も生産者として知恵を出して頑張っていきたいと思っているので、是非お願いします。

#### ◇牧野委員

- ・マグロ対策について、漁業者としては獲らないように努力はしているが、アジ、サバ、イワシを獲るに当たって混獲することがある。何年か前までは、マグロが入ったら大喜びだったが、今では入ったら逃がさないといけないため、アジ、サバも逃げてしまい、大変勿体ないことである。

#### ◇林委員

- ・西郷女性部では、食育として、保育所、小学校、中学校からの申込みがあれば、出講する。魚の代金は、県やJFから補助していただいている。ただ、魚の下処理に2日かかる。この時は、仕事を休んで、出ていただいている。心ぐるしいがボランティアでやっていただいている。このボランティア部分を婦人部で何とかしたいと考えているところ。県から依頼があった食育は、県から補助がでる。年に2～3回。
- ・県から、西郷以外の郡部の中学校で食育教室をやって欲しいとの依頼があり、白バイを使った教室をする予定。高級な貝ではなくアジなどの大衆魚を使って、多くの郡部で行うよう要望を出している。今後も協力をお願いします。

#### ◇門脇委員

- ・資料2の水産戦略プランの中で、宍道湖のシジミの達成率が使われており、どうしたらよいか考えているところ。
- ・ご存じのとおり、シジミの採捕量というのは魚と違い、コンテナ2カゴ、90kgの漁獲制限がある。量を沢山獲って金額を上げるということは、なかなか難しいと考えている。ただ、宍道湖のシジミは小さいという評価があるのですが、今後はL玉

- を多くするようにすることも必要かなと考えているところである。
- ・宍道湖、中海を併せると全国有数の汽水域であるが、その上流である斐伊川水系も含めた一連の水域として捉えた漁業振興策、水産振興策が必要と思っている。
  - ・例えば、今話題になっている、下りウナギを保護しましょうという取り組みですが、今の日本のウナギ資源の状況からは非常に大事な取り組みとは考えるが、宍道湖では、ある程度のウナギの水揚げが有り、規制という名の網を掛けられると非常に苦しい状況となる。行政サイドと連携しながら、うまくやっていきたい。
  - ・資料3の方で、特色有る内水面漁業の衰退という記述があるが、推進を進める上では、宍道湖七珍等の言葉をもっと知っていただくよう努力が必要。
  - ・宍道湖シジミは、是非味噌汁で食べていただき、身も併せて食べていただきたい。
  - ・直接は関係ないが、海の日が有って、山の日があつて、全国的に有名となって祝日となっているが、間だの川の日も1996年に制定されているようだが、皆の目が向くようになって欲しい。

#### ◇大江委員

- ・県への要望となることはご容赦いただきたい。
- ・この度の島根創生計画を見させていただいた。全般を網羅され、素案としては非常に良いものと、他の町村長も思っている。ただ、達成率を上げて行くためには、県と市町村が一体となって取り組む必要があるなど感じている。
- ・特に5ページには、計画推進の手法ということで、現場主義の県民目線を訴えているが、達成率を上げるためにはここは重要であると感じている。
- ・そこで、沿岸漁業の担い手のことで申し上げると、沿岸漁業で300万円の水揚げで本当に生活できるの？という質問もありました。今まで、我々の地域は、半農半漁という形態で、漁業をやりながら、傍ら農業をやって生計を立てていた。U・Iターンの方々に、漁業だけを専業でやれということはなかなか難しいと思われる。地域地域にあったこれからのアクションプラン。極端に言えば、その地先、地先にあったやり方の新規漁業者の育成方法。研修方法。漁業をやっているのに、農業や林業も学ぶという様な柔軟な体制で後継者の育成をやっていただきたい。
- ・したがって、県庁の本課で研修メニューを決めるのではなくて、現地の自治体と合わせた研修メニューを作りながら、アクションプランを作る。そうすれば、達成率をあげていくのに有効な手立てではないかと考えている。今後、アクションプランを作っていくためには重要視していただきたいと思っている。
- ・農業には、半農半Xというものはあるが、半漁半Xは聞いたことがない。漁業にも、半漁半Xに向かうことも重要ではないかと思っている。
- ・以前は、沿岸の藻場造成とか藻場漁場とかあったが、その後、県としての進捗状況がチョット見えない。情報があれば教えていただきたい。
- ・最後に、隠岐では、養殖イワガキの販売をあげてきており、今後、生産者が規模拡大を考えていこうとしている時に、今の水産振興協会がやっているイワガキの種苗生産が、ここ5年間本当に悪い。この様な状況が今後も続くと、U・Iターン者が来ても、先が見えない状況となっている。1年での問題であれば、目をつぶろうと思うが、立て続けに生産率が悪い状況になっているので、大きく改善していただきたい。

【県側から】

○漁港漁場整備課 安木課長

- ・大江委員より藻場の話があつたが、県の方で、磯焼け対策が必要な状況にある場所については、藻場を増やすという取り組みを地域の皆さんと一緒に考えている。試験的に藻場礁を入れてみたりしている。藻場ビジョンという藻場を増やす考え方を隠岐と本土で分けて進めているところ。
- ・隠岐の島は、先行して昨年から進めており、知夫と西郷の犬来地区、蔵田地区で始めているところ。今年度本土側も進めているところ。何処が、藻場が衰退しているのか調査をし、どの様な対策をしていくか考えているところ。今後、海士町の方でも藻場が足りないよというお話があれば、ビジョンを作る中で検討していきたい。

(5) その他

特に予定無し

○終わりに当たっての農林水産部長より一言

5. 閉会